



◎大型クルーズ船誘致から見えてくる二つの県政の課題

全国的にクルーズ船でのインバウンドが好調で各地が競う形で船の誘致に取り組んでいますが、本県では長崎市は依然好調な実績を示し、佐世保市も力を入れ始めています。長崎市のクルーズ船観光における課題は「お金を落とさせる仕組み、仕掛けが未だ十分でない」「観光地に誘導する交通アクセス、言語対応が遅れている」等、以前からの懸案が解決されていない点で、ハード面の課題としても「2パース化の事業認定の遅れ」と「今後増えるであろう20万トン級超の大型クルーズ船への対応」があります。前者は個人的には仮に着工されても竣工する頃にはクルーズ船の寄港のピークは越えており、むしろ減少している（あわせて物流がなければ発展しない）ことを踏まえたなら別の計画を検討すべきではないかと思っています。

そして今般相談を受けたのは小ヶ倉柳ふ頭における「大型クルーズ船の停泊」の問題です。県は2020年に「女神大橋を通過できない大型クルーズ船」をこの地に停泊させるべく準備を進めています。事業者からは数々の問題点が指摘されていますが、私は特に約5000人の観光客が一度に降りバスで街中に移動する（約200台）には現道路では大渋滞が予想され、地域の方や野母方面から車で移動される方に大きな影響が出ることを心配しており、その点は協議されていないようです。

未来の長崎港

2014年 マエテツ提案

増加するクルーズ客

年	クルーズ客数
2013	39隻
2014	79隻
2015	130隻(予定)

今の暮らしをよくすることももちろんですが、県民が将来に夢がもてる「未来への投資案を示す」ことも政治家にとっては大事な資質です。

次世代型長崎湾構想

新規事業及び雇用の確保	大型クルーズ船の誘致	海産エネルギーの存在証明	
旅客送迎船の雇用拡大		「ちきゅう」の誘致	海洋クラスターの推進
地域産業の観光開発促進		未来系港湾のインフラ整備	造船技術の未来系教育促進
観光資源魅力アップ戦略		再生可能エネルギー基地として	造船技術者の雇用促進
離島半島複合航路推進		半島・離島振興の起爆剤	子供たちへの生きた教材

「ちきゅう」の母港誘致

- 世界最先端の科学観測船
- 掘削可能深度 7000m
- 三菱重工長崎で建造(2005年竣工)
- 最終的にはマントル掘削を目指す

県議会議員 前田哲也通信
2015年2月
〒852-8023長崎県長崎市若草町14-11
TEL.095-840-9020 FAX.095-840-9027

地球深部探査船「ちきゅう」を長崎へ
(世界最高峰海洋技術拠点形成へのシンポジウム)

- ・ 11/23 (金祝)
- ・ 13:30-16:30
- ・ 長崎県美術館 2F

- <プログラム>
- ・ 基調講演 (参議 秋野公造氏)
 - ・ 経済産業省挨拶
 - ・ トークセッション 1部
 - ・ トークセッション 2部

今は護岸工事の説明会のため土木部とのやりとりのみですが、陸は産業労働部、交通は県警、新たな湾岸道路が必要となればこれも土木部、そしてクルーズ船誘致は国際観光部と縦割りで物事が進められており全体像が誰にも見えていないことに問題があります。そもそもここはコンテナヤードですから一時的ならまだしも「将来の構想」を描かねばならないと思った時に、私が4年前に訴えていた伊王島におけるパースの建設による「大型クルーズの寄港、海底探査船ちきゅうの母港誘致と海洋産業創出」(上図参照)をもっと強く働きかけておくべきであったと後悔しているところです。

ですからもう一度働きかけようと思います。折しもしばし休眠状態であった私も所属する研究会での講演会が右上の通り行われます。ご都合のつく方は是非ご参加くださいませ。